

平成 28 年度評価結果を踏まえた改善策の平成 29 年度普及指導計画等への反映状況

【主な普及指導計画】

東青地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	反映結果	県の考え方
「青天の霹靂」の 生産拡大とブラン ド化の推進	A：1名 B：4名 C：1名	- 生産目標達成率の目標値は、安全性を見て高い水準となっているが、底上げを図るような水準の方が望ましいのではないか。(吉仲委員) - 生産目標達成率の目標値は、各年度とも100%となっているが、少しずつ上がっていく方がよいのではないか。(田中委員)	・反映しなかった	生産目標は、ブランド米としての評価を高めるために県ブランド化推進協議会が設定したもので、作付面積が拡大しても、計画当初から継続して100%を目標に活動に取り組んでいる。
		目標項目として、生産目標達成率だけでなく、生産目標数量も追加してはどうか。(田中委員)	・反映しなかった	- 生産目標数量は、作付面積にほぼ比例することから、作付面積を目標項目として設定している。 - なお、良食味を目指すため、収量目標を10a 当たり9俵程度としている。
		玄米タンパク質含有率の基準は、6.0%以下と6.4%以下の二つではなく、6.0%以下の一つだけとした方がよいのではないか。(対馬委員)	・反映した	「青天の霹靂」の出荷基準は、玄米タンパク質含有率6.4%以下と定めているが、引き続きより良食味な米を生産するため、生産目標を6.0%以下として、取り組む。
		生産目標達成率が低い原因を究明し、高めるような対策をしっかりと実施し、ブランドの水準を維持してほしい。(田中委員)	・反映した	平成28年産の検査実績や栽培管理記録等を活用しながら、未達成の生産者には場選定及び施肥設計指導を行う。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

中南地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	反映結果	県の考え方
市場ニーズや地域特性に応じた高品質ももの生産推進	A：1名 B：5名	・産地化やブランド化に向けた適切な数値目標の設定が必要ではないか。（吉仲委員）	・反映した	・産地化として管内のももの目標出荷量を300トンに設定した。ブランド化の目標として引き続き糖度基準11%以上の規格割合80%以上とした。
		・果実の一時冷蔵保管の検証に努めてほしい。（田中委員）	・反映した	・各農協の現有冷蔵施設を活用した実証試験に取り組んで検証を行う。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

三八地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	反映結果	県の考え方
経営所得安定対策 のフル活用を目指 す水田農業の確立	A：2名 B：4名	・収益性や組織運営への影響を考慮した課題設定が必要ではないか。（吉仲委員）	・反映した	・成果目標に2組織の経営分析を追加した。
		・小麦以外の収量に係る目標値が低いのではないか。（対馬委員） ・目標値を達成している項目は、次年度の目標値を高く設定してはどうか。（田中委員） ・水稻の収量に係る目標値が3年間同じなのは消極的ではないか。（対馬委員）	・反映した	・技術レベルと実績を踏まえ、作目毎に適正な収量目標を再設定した。 ・成果目標を水稻は収量540kg/10a、そばの品質は全量1、2等内の規格とした。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

西北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	反映結果	県の考え方
シャインマスカットの産地育成	A：4名 B：2名	・栽培面積に係る目標値をもっと上げてほしいのではないか。（高村委員）	・反映した	・成果目標の面積を5.0haに引き上げた。
		・関東等へ出荷する場合は、粒の大きさが評価の対象となるので、品質に係る目標項目を追加してはどうか。（渋谷委員） ・出荷または販売に係る目標項目を追加してはどうか。（対馬委員）	・検討中	・目標項目までの設定に至っていないが、西北の大粒系ぶどう産地育成会議において生産・販売等戦略を検討している。
		・長期貯蔵技術の確立に係る目標項目を追加してはどうか。（田中委員）	・反映した	・成果目標に長期貯蔵技術の確立を設定した。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

西北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	反映結果	県の考え方
産直組織等を核とした西北産品の販売拡大	A：2名 B：4名	・育成した女性起業家の事業継続を支えるフォローアップに係る課題を設定としてはどうか。(吉仲委員)	・反映した	・集荷システムの定着による販売力の強化を行うこととした。
		・ネットワーク協議会員や女性起業家を自立させるような指導が必要ではないか。(対馬委員) ・所得が残るような起業家を育ててほしい。(高村委員)	・反映した	・販路拡大や経営改善に向けた情報提供及び巡回指導。また、起業活動のステップアップに向けた研修会を行うこととした。
		・販路拡大として、もっとスーパー等に出て行ってもよいのではないか。(田中委員)	・取組中	・研修会の開催や商談機会の提供など経営や販路拡大のための指導・助言を行う。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

上北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	反映結果	県の考え方
牛群検定成績を活用した飼養管理技術の向上	A：2名 B：3名 C：1名	・牛群検定に参加している生産者に対し、全体での自分の立ち位置が見えるような形で返せば、もっと役立つのではないかと。（吉仲委員）	・反映した	・乳質改善共励会審査データを活用した課題の整理を行うこととした。
		・目標項目の基準数値を明示した方が分かりやすいのではないかと。（渋谷委員） ・一般県民でもある程度分かりやすい表現にしてはどうか。（対馬委員）	・反映した	・成果目標に乳質Aランク率の向上及び個体平均乳量の向上を設定した。
		・新規取組者や後継者への支援に係る目標項目を追加してはどうか。（高村委員）	・取組中	・普及活動において牛群検定実施者及び新規取組者に対する技術支援を行う。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

上北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	反映結果	県の考え方
野辺地葉つきこかぶの産地力向上	A：1名 B：3名 C：2名	・「こかぶ塾」の強化や、関係機関と連携した販路拡大等に係る具体的な課題設定が必要ではないか。(吉仲委員)	・取組中	・先進地視察研修や優良農家の経営研修を開催。 ・販路拡大の具体的な課題設定については、夏期専用品種の作付面積の増加が販路拡大につながるため、引き続き面積の拡大に取り組む。
		・作業の軽労化も大事な視点ではないか。(渋谷委員) ・労力にあった販売額を上げるような支援が必要ではないか。(高村委員)	・反映した	・葉つきという出荷形態であり鮮度面が重要視される中で、収穫調製作業は手作業に頼らざるを得ない状況にあるが、作業の軽労化について、他産地の情報を収集しながら、検討する。
		・もっと県内外へ生食による味のPRに力をいれてはどうか。(田中委員) ・エリアにとらわれずに、適作地の拡大による生産量の確保が必要ではないか。(原委員)	・反映した	・トップセールスや総合販売戦略課が実施する宣伝活動と連携しながら、引き続き、県内外の量販店等で、生食できる素材の特性を前面に出した活動を展開する。
		・目標項目として、販売単価を追加してはどうか。(原委員)	・反映しなかった	・販売単価は、市況に大きく左右されることから、目標項目は、夏期専用品種の作付面積と新規作付者の育成とした。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

下北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	反映結果	県の考え方
担い手育成と野菜生産拡大を通じた直売所の活性化	B : 6 名	・次年度以降も直売所の活性化に向けた多面的な活動を継続してほしい。(吉仲委員) ・販売額を伸ばす方向性として、下北地域では水産分野がよいのではないか。(原委員) ・農産物だけでなく、水産物もうまく利用し合っていったらよいのではないか。(原委員) ・販売額を上げるためには、地域の異業種との連携のほかに、他地域からのゲストを招き、地元の交流の場とすることもよいのではないか。(田中委員) ・野菜づくりの担い手を確保するためには、退職者に自家菜園から直売所に出荷してもらってはどうか。(原委員)	・反映した	・成果目標に異業種とのマッチング数を設定し、直売所と異業種との連携 ・マッチング支援のほか直売所向けの農林水産物の生産・加工等の新たな取組を支援する。

評価区分 A : 大いに評価できる B : 概ね評価できる C : やや評価できる D : 一部改善が必要 E : 大幅な改善が必要

【普及指導活動の体制】

内 容	評価結果	主な意見等	反映結果	県の考え方
普及指導の組織体制、人員の動向、資質向上の取組状況等	A：1名 B：5名	・ 求められる仕事に対して人員が不足していると感じるので、少なくとも現状の人員を維持してほしい。(原委員)	・ 取組中	・ 引き続き人材育成計画により普及指導活動を行う。
		・ 普及指導員資格試験の合格率を上げるためには、新規採用職員の負担をなるべく減らせるような配置にしてはどうか。(吉仲委員)	・ 取組中	・ O J Tで普及指導手法を習得させる。 ・ 集合研修等の充実を図る。
		・ 人材育成計画には、新規就農者など担い手の育成に係る能力の向上についても記載すべきではないか。(原委員)	・ 反映済	・ 人材育成計画において、普及指導員の果たすべき役割の一つとして記載済。
		・ ある年齢に達したら、希望する研修を積極的に受けさせることも必要ではないか。(対馬委員)	・ 取組中	・ 引き続き人材育成の推進体制により積極的に研修を受けやすい環境づくりに努める。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要